

(書式1)【候補者用】

① 立候補者の 姓名と所属	竹田 宜人 北海道大学大学院工学研究院客員教授 (5/1 から) (元 横浜国立大学環境情報研究院客員准教授)
② 立候補の理由と 抱負 (400 字程度)	新型コロナウイルス等の社会的なリスクに対応するためには、市民一人一人のリスク概念に対する理解が必要であるが、社会的なニーズと学術的な関心事は必ずしも一致しているとはいえない。今後の社会実装の観点からは、それらの成果と現場を繋いでいく組織や教育システムが必要である。当方は、これまで、本学会の管理する資格であるリスクマネージャの有効活用によるリスク学の社会実装を検討してきた。その取り組みは道半ばであり、リスクマネージャ制度の再構築のため、理事に立候補するものである。
② 本学会におけ る活動歴	平成 14 年入会。学会発表 10 回。企画セッション 7 回。原著論文等掲載 4 回。 リスクコミュニケーション TG 世話人。
④ 研究歴・職歴等 (100 字以内)	1978 年 広島大学総合科学部 生化学 1982 年 筑波大学理工学研究科 放射化学 防衛省海上自衛隊、石川島システムテクノロジー、東京都庁勤務 2005 年 東京都立大学都市科学研究科修了 (都市科学博士) 2005 年 (独)製品評価技術基盤機構 2011 年 横浜国立大学環境情報研究院客員准教授を兼務 2019 年 (独)製品評価技術基盤機構を退職 2020 年 北海道大学大学院工学研究院客員教授 (予定)

(書式2)【推薦者用】

① 推薦する候補者 名	竹田 宜人氏
② 推薦者の 姓名と所属	岸本充生 大阪大学データビリティフロンティア機構 (IDS)
③ 推薦理由 (400 字程度)	竹田氏は NITE で 15 年にわたり、現場ベースでの化学物質のリスクコミュニケーションを実践されてきた。2011 年からは大学教員を兼務し、実践だけでなく研究および人材育成にも注力し、当理事会においてはリスクマネージャ制度の再構築に取り組んでおり、見直しの方向性が見えてきたところである。また、リスク学会において、2012 年に発足したタスクグループ (TG) の 1 つである、リスクコミュニケーション TG の世話役として活躍している。リスクコミに関する多彩な人脈と経験を有する竹田氏にはさらに活躍して戴くため、本学会の理事候補として推薦いたします。